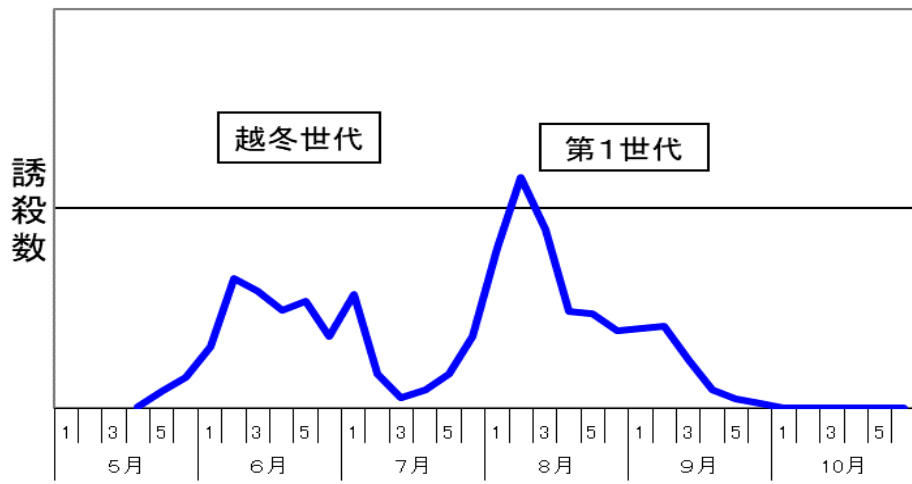


# モモシクイガのフェロモントラップ誘殺消長 [令和8年(2026年)調査]

病害虫防除部

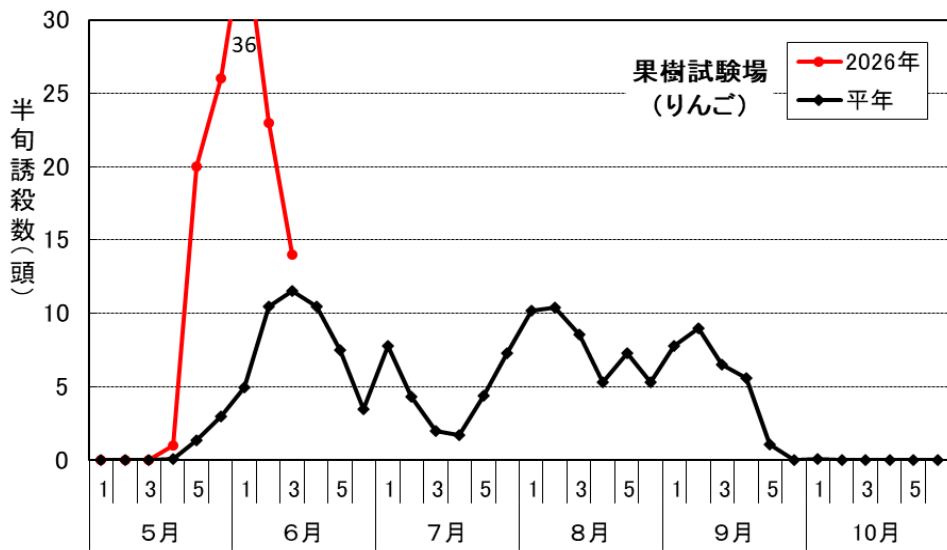
過去10年間の消長模式図(果樹試験場内 試験場予察ほ)



## 【発生生態と防除のポイント】

- ・標高600m以下の平地では年2回が大半である。
- ・準高冷地及び日照の少ない山沿いでは年2回発生が主体で、1回発生が混在する。
- ・越冬世代成虫は6月上旬から始まり、7月に入ると盛んになり、8月上旬まで続く。産卵は7月になると急増し、産卵最盛期は7月中下旬で、大半はがくあ部に産みつけられる。
- ・第1世代成虫は8月上旬から発生し、発生最盛期は8月中～下旬である。産卵最盛期は、成虫の発生期とあまり変わらない。
- ・防除はふ化幼虫の食入防止を中心とする。6月下旬から概ね2週間間隔で9月上旬まで防除する。特に7月中下旬と8月中下旬は重要な防除適期である。

## ○県予察ほ(須坂市・果樹試験場)



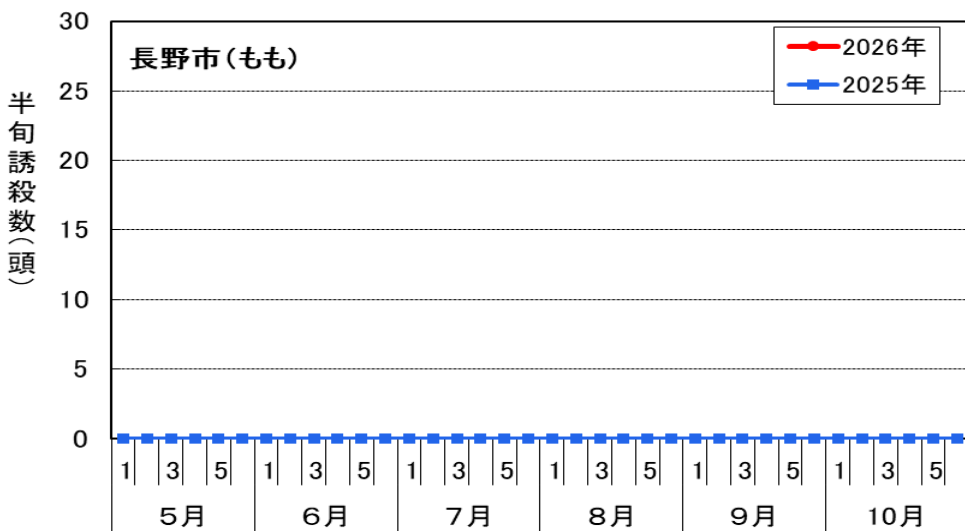
## 【調査地点】(標高約350m)

- ・須坂市 長野県果樹試験場(りんごほ場)
- ・平年は2016年～2025年の平均値

## 【コメント】

- ・5月第5半旬に、越冬世代成虫の急激な誘殺頭数の増加がみられた。平年のピークは5月第3半旬であるが、2半旬早い5月第1半旬にピークを迎え、ピーク時の誘殺頭数は平年のピーク時の約3倍であった。

## ○長野市・須坂市(病害虫防除部)

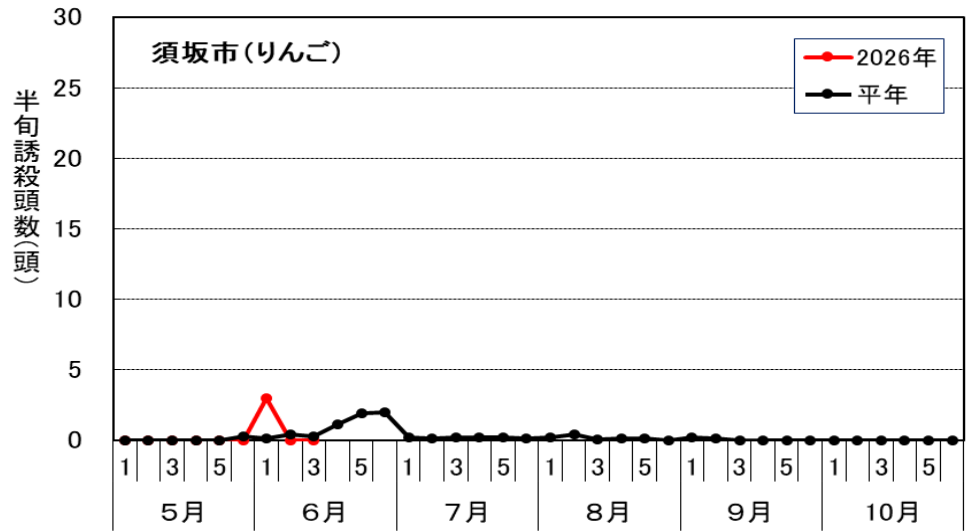


## 【調査地点】(標高約340m)

- ・長野市(ももほ場)
- ・2024年からほ場変更したため、平年値なし。

## 【コメント】

- ・6月第3半旬時点で、本年度の誘殺はまだ観測されていない。



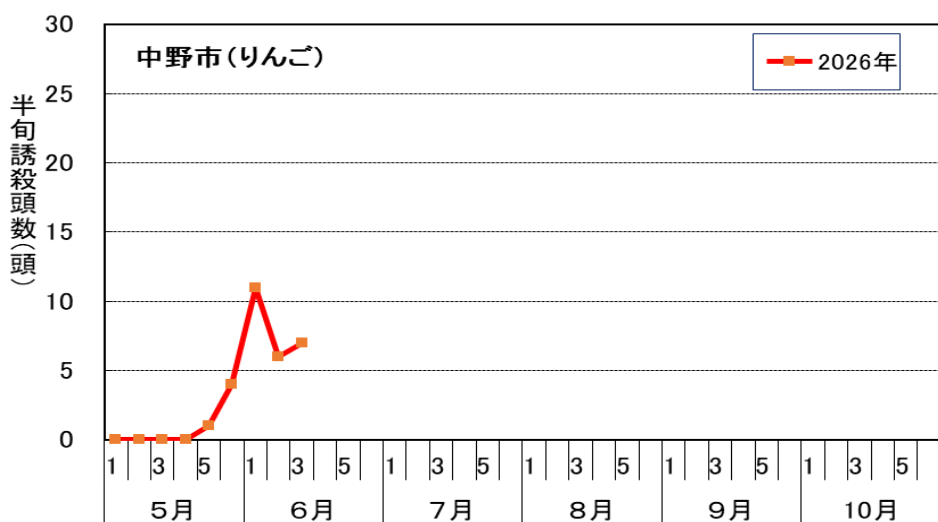
## 【調査地点】(標高約430m)

- ・須坂市(りんごほ場)
- ・平年は2016年～2025年の平均値

## 【コメント】

- ・6月第1半旬に、本年度の初誘殺を観測したが、その後誘殺は記録されていない

## ○中野市(発生予察ほ)



## 【調査地点】(標高約360m)

- ・中野市(りんごほ場)
- ・2026年より設置のため、平年値および前年値なし

## 【コメント】

- ・今年度より中野市のりんご園に設置した発生予察ほにおけるフェロモントラップへは、5月第4半旬に初めて誘殺が記録され、その後も半旬あたり5～10頭の誘殺が継続して観察されている。